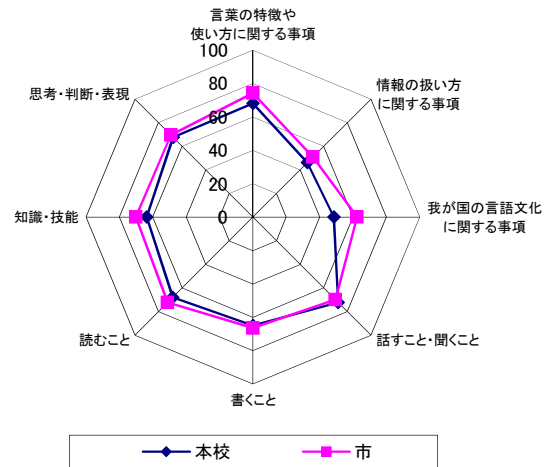


# 宇都宮市立御幸が原小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	68.2	74.3	74.8
	情報の扱い方に関する事項	46.2	50.9	48.4
	我が国の言語文化に関する事項	48.5	62.4	60.8
	話すこと・聞くこと	72.2	69.9	69.7
	書くこと	64.9	66.4	64.6
	読むこと	67.9	72.3	71.0
観点別	知識・技能	63.6	70.1	70.0
	思考・判断・表現	67.6	69.5	68.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

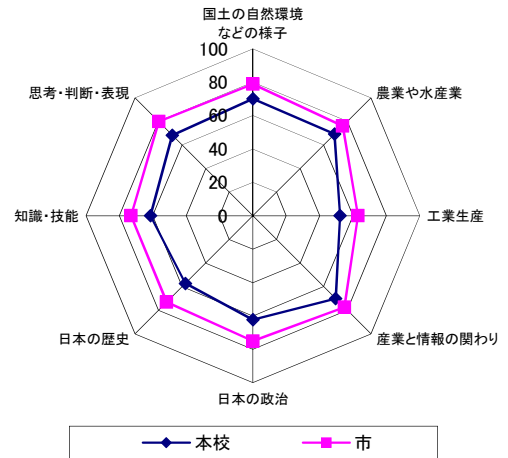
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○漢字の読み書きや敬語の使い方などに関する問題の全体の平均正答率は、市を6.1ポイント下回っているが、漢字を書く一部の問題では、市の平均を4.5ポイント上回ったものもあった。 ●三字の熟語の成り立ちについての理解の問題では、市の平均を30.5ポイント下回った。	・日常生活や他教科の学習で出てくる語句の漢字を正しく覚え、使おうとする意識を高めていけるよう支援していく。 ・漢字の読み書きだけでなく、意味や熟語などの知識の指導も行っていく。
情報の扱い方に関する事項	●情報同士をつなげて文章の情報を整理したり、目的に応じて文章を書いたりする問題の全体の平均正答率は、市を4.7ポイント下回った。	・情報を取捨選択する力を高めるために、課題の意図を読み取ったり、文章やスピーチに取り組む目的を理解して学習させたりすることなどを様々な教科・領域で実施していく。 ・語彙力を高めるため、聞き慣れない語句について国語辞典や1人1台端末などを使って調べる習慣を身に付けるよう支援していく。
我が国の言語文化に関する事項	●漢字の由来に関する問題の全体の平均正答率は、市を13.9ポイント下回った。	・漢字の成り立ちやそれぞれの漢字の部首の表す意味を理解しながら漢字を読んだり、書いたりすることができるよう指導していく。
話すこと・聞くこと	○平均正答率は、他の領域より高い。また、市の平均より2.3ポイント上回った。 ●互いの立場や意図を明確にしなが話し合う問題の誤答が多かった。話の内容を整理したり、深く理解する力を身に付けることが課題と思われる。	・話の内容を聞き取り、内容を整理したり、忘れることが無いように、話を聞きながらメモを取ったりする習慣が付きように指導していく。 ・話の内容を深く理解するために、相手の話を自分の中で要約する活動を行っていく。
書くこと	○指定された長さで文章を書く問題では、市の平均を5.3ポイント上回った。 ●第5学年に配当されている漢字を正しく書く問題では、市の平均を5.1ポイント下回った。 ●情報と情報との関係について理解し、目的に応じて、文章を簡単に書く問題では、市の平均を3.8ポイント下回った。	・段落を構成しながら文章を書くことができるよう、国語以外の他教科でもグラフを読み取って事実を書いたり、自分の意見を明確に書くことができるよう指導していく。 ・当該学年の漢字を書けるようにするために、漢字練習で読み方や使われ方を使い分けできるように、声に出して読んだり空書き指書きを徹底していく。 ・空欄の前後の文に目を向け、自分の考えを書けるよう指導していく。
読むこと	○説明文の内容を的確に理解しなければ答えられない問いの正答率は83.3%と高く、市の平均より8.3ポイント上回った。 ●物語の登場人物の心情や場面の描写を読み取る問いの正答率は、市の平均より11ポイント下回った。 ●説明文の構成や情報を整理する問いの正答率は、市の平均より5ポイント下回った。	・単元の内容に沿った図書資料を用意するなどして、様々な文章に慣れ親しませる。 ・物語の起承転結を確認したり、登場人物の関係に着目させたりすることで、読解力を向上させていく。 ・根拠となる文章にサイドラインを引く活動をすることで、文章に即して内容を読み取ることができるよう指導していく。

# 宇都宮市立御幸が原小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	70.1	78.9	75.4
	農業や水産業	69.2	76.1	71.2
	工業生産	52.2	62.9	59.4
	産業と情報の関わり	70.1	77.6	59.7
	日本の政治	62.3	75.0	79.3
	日本の歴史	57.3	73.1	72.8
観点別	知識・技能	61.4	73.0	71.4
	思考・判断・表現	68.3	79.8	71.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

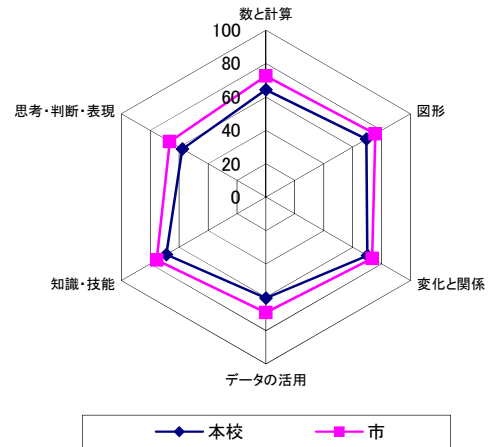
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>●正答率が70.1%と、市の平均を8.8ポイント下回った。</li> <li>●日本の主な地形(平野, 山脈, 河川)の名称と位置の理解のもとに、地図を読み取る問題では、市の平均49.7%に比べて、15.4ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の主な地形(平野, 山脈, 河川等)の白地図や、復習用のプリント等を準備し、家庭学習等で活用し、さらに定着を図る必要がある。</li> </ul>
農業や水産業	<ul style="list-style-type: none"> <li>●正答率が69.2%と、市の平均を6.9ポイント下回った。</li> <li>○米の生産量についての表を読み取り、都道府県を地図に表す問題では、市の平均と同程度となった。</li> <li>●複数の資料から魚の流通にかかる費用の割合を読み取る問題の正答率が70.1%と、市の平均83.2%を13ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・復習用の教材や、資料を読み取る問題を活用し定着を図る。</li> <li>・資料から読み取れることを整理したり、比較したりし、判断できる力を養う。</li> </ul>
工業生産	<ul style="list-style-type: none"> <li>●正答率が52.2%で、市の平均を10.7ポイント下回った。</li> <li>●大工場と中小工場の理解のもとに、資料を読み取る問題で、市の平均を8ポイント下回った。</li> <li>●日本の鉱山資源の輸入について資料を読み取る問題で、市の平均を17.3ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・復習用の教材を準備し、学習内容を再確認させる。</li> <li>・地図やグラフなどの資料を読み取る活動において、内容を整理したり資料同士で比較したりしながら、話し合う活動を通して、思考力の向上を図る。</li> </ul>
産業と情報の関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>●正答率が70.1%で、市の平均を7.5ポイント下回った。</li> <li>●インターネットを利用するときの注意点を問う問題で、市の平均を9.8ポイント下回った。</li> <li>●資料に着目して、コンビニエンスストアのポイントカードの利点を考え、表現する問題で、市の平均を5ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習内容をまとめる際にキーワードを提示し、自らの言葉で学習をまとめることで、学習の定着を図る。</li> <li>・正しい判断のもとで情報を扱うことができるように、日常生活においても情報モラルを適宜指導し、メディアリテラシーを高めていく。</li> </ul>
日本の政治	<ul style="list-style-type: none"> <li>●正答率が62.3%と、市の平均を12.7%下回った。</li> <li>●日本国憲法の三原則について問う問題の正答率が43.3%と低く、市の平均を26.1ポイント下回った。基本的な知識の定着に課題が見られる。</li> <li>●裁判の仕組みについて問う問題の正答率が64.2%と、市の平均を15.4ポイント下回った。資料から読み取れる事象について考察することに課題が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・復習用の教材を活用し、日本国憲法の内容や日本の政治の仕組みについて再確認させ、定着を図る。</li> <li>・あまり身近ではない項目については、新聞やニュースなどの話題を取り上げ、政治に興味を持たせるとともに、家庭学習等においても自主的な調べ学習を奨励し、学習内容の定着を図る。</li> </ul>
日本の歴史	<ul style="list-style-type: none"> <li>●正答率が57.3%と、市の平均を15.8%下回った。</li> <li>●元寇についての理解を問う問題の正答率が46.3%と、市の平均を28.9ポイント下回った。</li> <li>●室町時代の文化について問う問題の正答率が40.3%と低く、市の平均を34.1ポイント下回った。</li> <li>●鎌倉時代から室町時代の歴史的出来事や、時代の変化について理解することに課題が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・復習用の教材を活用し、歴史の流れや出来事について再確認させ、定着を図る。</li> <li>・社会科新聞づくりを通して、資料を活用したり、要点をまとめたりしながら、自分の言葉で表現する力を育てる。</li> <li>・家庭学習等において、自主的な学習を奨励し、歴史の基礎的な学習内容定着を図る。</li> </ul>

# 宇都宮市立御幸が原小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	64.3	72.6	73.1
	図形	69.5	75.7	74.7
	変化と関係	70.2	73.6	66.1
	データの活用	60.6	69.2	70.7
観点別	知識・技能	68.9	75.5	74.4
	思考・判断・表現	57.7	66.5	67.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。  
 (算数では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

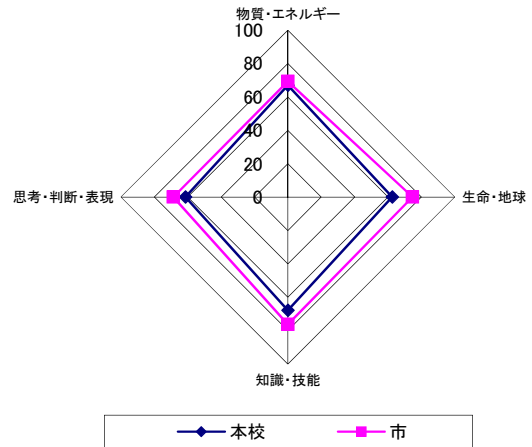
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> <li>●正答率が64.3%で、市の平均より8.3ポイント低かった。</li> <li>●文字を使った式を表す場面を選ぶ問題では、正答率が市の平均より15.4ポイントとかなり低かった。</li> <li>○小数の乗法の考え方を基に、整数×分数の計算の仕方を考え、説明する問題では、正答率が市とほぼ同じで48%だった。考えの続きを書く問題は苦手なようだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な計算の苦手な分野を確認させ、教科書巻末の「6年間の算数の総まとめ」で補充的学習ができるようにする。復習用教材もプリントして用意しておき、それも有効活用していくなど、個に応じた指導を継続していく。</li> <li>・図を用いて考えたり説明したり考えたりする力をつけるために、各学年の授業で、図や表、式、説明を往還させる指導を行う。</li> </ul>
図形	<ul style="list-style-type: none"> <li>●正答率が69.5%で、市の平均より6.2ポイント低かった。</li> <li>○合同な三角形を作図する問題では、87.9%と市の平均を1.4ポイント上回った。</li> <li>●線対称な図形の対応する点を見つける問題では、正答率が市の平均を11%下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・苦手な分野を確認させ、教科書巻末の「6年間の算数の総まとめ」で補充的学習ができるようにする。復習用教材もプリントして常に用意しておき、それも有効活用していくなど、個に応じた指導を継続していく。</li> <li>・各学年において、図形についての見方を用いて面積や体積、長さを求めることを実感させ、具体物を操作しながら体験的に学ぶ機会を多く取り入れる。そして、図形を識別する感覚的な理解だけではなく、問題を解く筋道を立てる論理的な理解につながるように授業を工夫する。</li> </ul>
変化と関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>●正答率が70.2%で市の平均より3.4ポイント低かった。</li> <li>○割合の問題では、正答率92.4%と市の平均より1.8ポイント高かった。</li> <li>●単位量当たりの速さの問題で分速を秒速や時速に直す問題の正答率は、48.5%と低かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・苦手な分野を確認させ、教科書巻末の「6年間の総まとめ」で補充的学習ができるようにする。また、復習用プリントも活用し、個に応じた指導を継続する。</li> <li>・単位量当たりの大きさや速さの問題では、身近な問題場面を設定し、もとにする量を意識させ、単位をそろえて比較する問題に多く取り組ませることで、理解を深められるように指導する。</li> </ul>
データの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>●正答率が60.6%で、市の平均より8.6ポイント低く、全ての問題で市の平均を下回っていた。</li> <li>●代表値を用いて示された記録が集団の中の半分より高いかを記述する問題では、正答率が13.6%と低く、市の平均を16.2ポイントも下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平均とデータの見方についての学習内容を確認し、理解を確かなものにするため、プリントやワーク等を使い、繰り返し復習させるなど、補充的な学習を継続して行っていく。</li> <li>・データやグラフから読み取ったことを根拠にして、そこから考えられることについて記述する力を伸ばすため、授業の中で、同様の問題に取り組ませ、自分の考えを分かりやすく書いて説明する活動を意図的に設定する。</li> </ul>

# 宇都宮市立御幸が原小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	67.0	69.3	65.7
	生命・地球	62.5	74.7	77.8
観点別	知識・技能	67.9	76.2	76.4
	思考・判断・表現	61.4	68.7	68.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>○平均正答率は、市の平均を2.3ポイント下回っているが、市平均との差は昨年より4.8ポイント小さくなった。</p> <p>○「物の溶け方」の水溶液の理解は12.9ポイント、ろ過の仕方は2.5ポイント市の平均より上回った。</p> <p>○実験の結果は、よく理解されており定着が良い。</p> <p>●実験に必要な準備物やそれに対する意味理解、実験の結果を概念化する、そこからわかることをまとめることに課題が見られる。</p>	<p>・具体的な操作を通して、知識を確かなものとして定着させる。</p> <p>・課題設定の際に目的を明確にする。その上で、準備物を考えさせる、自分なりの予想を持たせる、その予想と結果を比較して分かることをまとめる・概念化する、といった「考える時間」を十分に設定する。</p> <p>・実験に際して、授業の流れをパターン化し、定着を図る。</p>
生命・地球	<p>●平均正答率は、市の平均を12.2ポイント下回っている。</p> <p>○植物の葉のでんぷんを創る働きと日光の関係を調べるために、対照実験を行う理由の推測は、正答率が市の平均を2.9ポイント上回った。</p> <p>●基礎的な知識の定着が不十分。</p>	<p>・基礎的な知識、習得すべき文言を丁寧に取り扱う。</p> <p>・授業時間の最初などに、前時の復習・確認を行う。</p> <p>・日常的に理科に関する番組やニュースを紹介して、興味を広げる。また、一つの事象から多くの事象に関係が広がっていくことを教師側が意識して取り上げる。</p>

## 宇都宮市立御幸が原小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
主体的・対話的で深い学びを追求する授業づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○課題意識が高まる教材や問題との出会いの工夫(導入の重視)</li> <li>○活動内容に応じて、ペアやグループなど学習形態を工夫し、協働して課題に取り組む態度の育成(話し合い活動の重視)</li> <li>○議論を深め、言語活動を充実させる指導の工夫(コーディネート力の向上)</li> <li>○学習の終末に自分の考えが深まったり変容したりしたことに気付けるよう「書く活動」の設定(振り返り活動の充実)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の取組みでは、学校全体で「先生や友達の話最後まできちんと聞いている」の肯定的回答が約92%だった。話し合い活動は、感染症対策をしての制限のある活動になったが、「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」では約79%であった。</li> <li>・3年生から6年生では、「自分の考えを、根拠をあげながら話すことができる」の肯定的回答が約63%で、昨年度とあまり変わらなかった。</li> </ul>
個に応じた指導と、学習内容の定着を図る指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教科の特質や児童の状況に配慮した習熟度別学習や少人数学習、TT等の効果的な実施</li> <li>○1人1台端末学習などICTの効果的な活用による学習内容の確実な定着を理解する能力・態度の育成</li> <li>○火・水(朝会等がないとき)・金曜日の朝の学習の時間には、担任外の教員も各学年で個別指導を行い、国語・算数の学力向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6年生では、思考力・判断力・表現力等を問う問題について、各教科で課題が見られる。資料や情報に基づいて自分の考えを明確に記述したり、筋道を立てて表現したりするなどの記述式問題の平均正答率が低かった。</li> </ul>

### ★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

○市の調査から、各教科で市の平均を下回る傾向にあり、特に深い思考を伴う設問や記述問題に課題がある。そこで、学習活動の基盤である言語活動の充実を通して、学力の向上を図る。

- ・今年度の研究教科である道徳を中心に、話し合いを深めるための手立てを工夫してきた結果、話し合い活動における児童の肯定的な回答の割合は約79%であった。学力を向上させるためには、自分の考えを根拠をあげながら話すことができるようにしたい。各教科のねらいを達成させるための手立てとして、どの場面でどのような学習活動を行うとより効果的かを考えて、話し合い活動を位置付け、自分の考えを友達の考えと比べたり、つなげたりしながら、高めたり、広げたりしていけるように授業展開を工夫していく。
- ・問題に対して自分が理解したことを表現できるように、「書く」活動の充実を図る。教科・領域において、話し合いをした上で「書く」活動を重視し、意図的に設定していく。
- ・授業を通して、「何が分かるようになったのか」「どんな変容があったのか」「もっと考えたいこと」などについて自覚させるために、めあてに正対したまとめ、振り返りの確実な実施を行う。充実した振り返りをするために、本時のねらいや単元の展開等から、子供たちから引き出したい振り返りを明確にする。